

くらしを支える願いと祈り

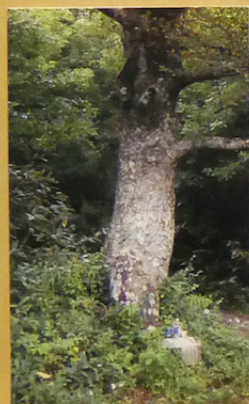
旧家の屋敷跡に残る地蔵と道祖神。屋敷内にあった薬師堂はすでに崩れかけていたが、そのかたわらの地蔵には、新しい手編みの毛糸帽子がかぶせてあった。屋敷を実家とする女性が孫のために毎年編んで供えるという。



井沢には、土地の人々によつて、小さな地区ごとに祀られてきた、草むらのなかの小さな神々があった。種沢集落の隅にあった小さな石の祠は熊野さま、井沢集落の旧道わきに数基の石の祠と石碑が並び一面は八幡さまと呼ばれ、ともに室町時代の文書にも記されている。

なかでも山神の石碑はここに多い。男たちにとつての山神は、山仕事や山からの恵みを祈る神であり、女たちにとっては、子と安産を願う神であった。

早稲田集落は、村の宗教者となる人々を生んできた集落で、明治のころ仙人さまと呼ばれた者が、屋敷内にさまざまな神々を集め、薬師堂を建て、不思議な力を示して人々を驚かせたという。移転時、屋敷跡には崩れかけた薬師堂と金精神や地蔵などの石像だけが残っていた。



桑沼への山道に古木



崩れかけた薬師堂



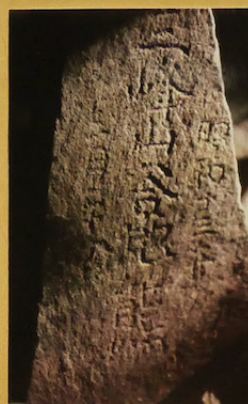
ハチマンブマ



地蔵



ヤマノカミ



クスノサマ



ミウジンゲマ



カメノ神